ある変化
内田春菊

いつものように
毛布だけかぶって
寝ていた
持病の胃けいれんが
出たあとだった

枕はあてていたが
下には何も
敷かなかった
いつもこうだ
私は
こういう
簡単なやり方で
どこでも寝る
ゆっくり
気が休まるような
寝場所じゃない方が
好きなのだ
人の家とか
ホテルとか…

ベッドでなくて
ソファとか…
あれ…

左腕の
つけ根が
変だわ

うそー
うそー
ぼすっ
ちょっと待ってよ
ホンモノだよ

似てるな

ぱく
感触もそっくり
ピチャ
ピチャ
元気いいな
あれ

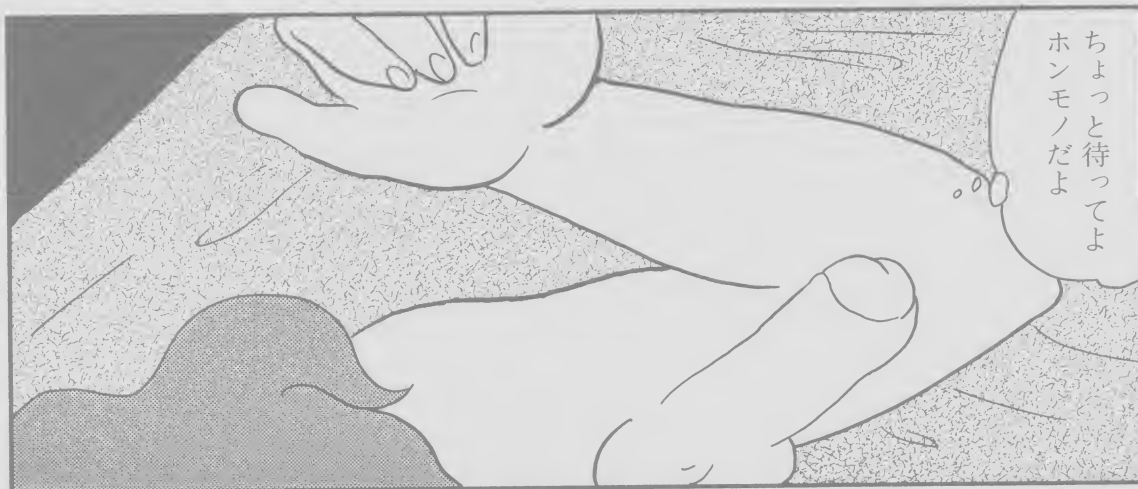
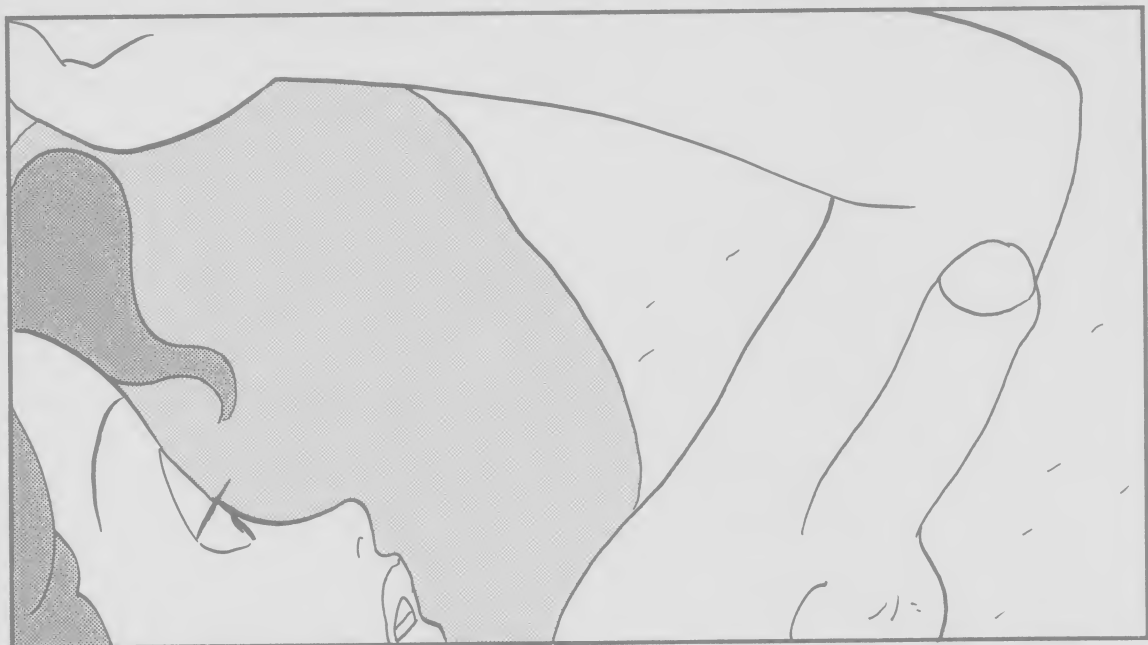
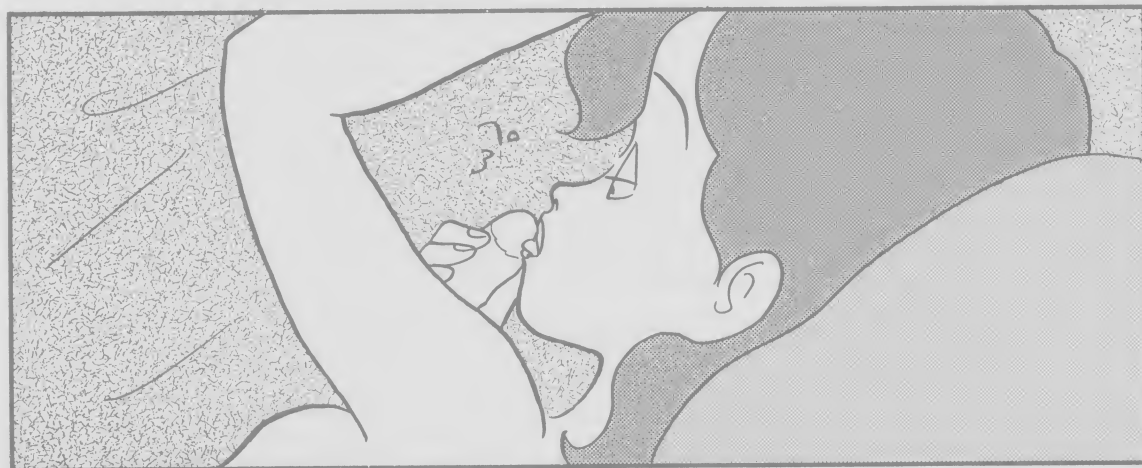
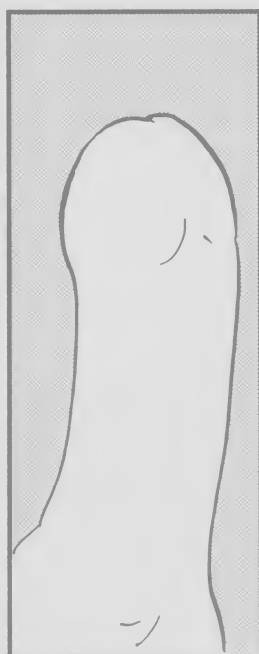
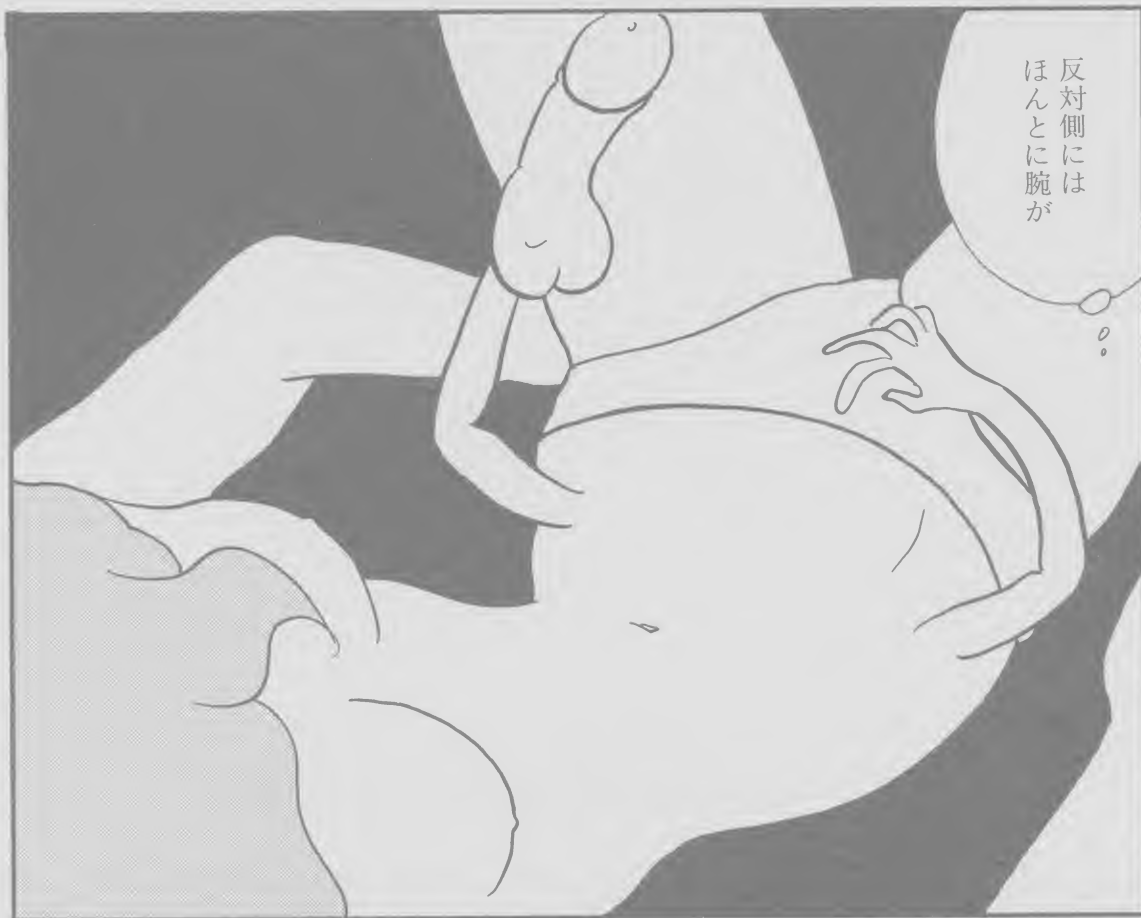
左腕のつけ根だったと
思ったのに
いつのまにか
場所がかわってる

それも
何だか
その下に
細い腕のような
ものがついていて

あら

反対側には
ほんとに腕が

うわー
うわー

でも
すごいよ
これ…

これで
あの子に入れて
あげられる…

あの子の
こと
気持ちよくして
あげられる

あっ

水着着れないや

これじゃ
どんなに
かくそうとしても
無理だ
絶対に

わかっ
ちゃう…

ほかの女の子みたいに
海へ行って
はしゃいだり
できな
いんだ…
二度と…
悲しい
でも…
そういうことと
ひきかえに
手に入れ
たんだ…
こういう
体…

あたし…
受け入れよう
この体…

ほとんど
バケモノだけど

あの子のこと
好きだし…

もしも
よろこんで
もらえるんなら…

あたしの
人生なんて

入れて…

完